

個別教育計画の「見直し、修正」に関する研究

—— 日々の「見直し、修正」を推進するシステムの提案 ——

井上優子¹

県立特別支援学校では個別教育計画を作成し、一人ひとりの障害の状態や発達段階等に応じた指導を行っている。個別教育計画は、児童・生徒の実態や変化に応じて適宜見直しを行い、必要があれば修正することが求められる。本研究では、個別教育計画に関わる「見直し、修正」についての実態調査（アンケート調査等）及び検証を通して、日々の「見直し、修正」を行う上で必要な要素について考察し、システムモデルとして提案する。

はじめに

個別教育計画は児童・生徒の実態に即した教育計画であり、個々の目標や指導の手立て等、日々の指導を実践する上での基礎となるものである。特別支援学校学習指導要領解説では、効果的な指導を進めるために、計画(Plan)－実践(Do)－評価(Check)－改善(Action)（以下、PDCAという）サイクルの中で指導の改善に努めることの必要性が示されている（文部科学省2009）。

県立特別支援学校においては、個別教育計画に関わる書式やその運用方法が学校ごとに設定されている。個別教育計画の「見直し、修正」に関しては、個別教育計画作成に関する手引き（以下、手引き等という）の中で、修正の際の方法、手続き（以下、方法等という）や「見直し、修正」の重要性について触れる等、様々な工夫が行われている。長野県総合教育センター（2010）が「個別の指導計画を修正・加筆しながら活用していくことで、さらにその子の主体的な姿を見い出すことが大切である」と述べているように、計画の「見直し、修正」を行いながら指導の改善を図っていくことが求められている。しかし「見直し、修正」実施の実情については「見直し、修正」を行っている者が少ないことが指摘されている（磯崎、立脇2003）。筆者自身が「見直し、修正」を行おうとした際にも、周りには実際に「見直し、修正」を行ったことがある者がおらず、「見直し、修正」の方法等が周知されていなかったことにより、取り組みにくかった経験がある。

そこで本研究では、アンケート調査で「見直し、修正」の現状と課題を分析し、検証を通して日々の「見直し、修正」を推進するシステムモデルを提案する。そしてシステムモデルを示すことで「見直し、修正」及び個別教育計画の活用が推進されることを目指していくこととした。

研究の内容

1 研究の構想

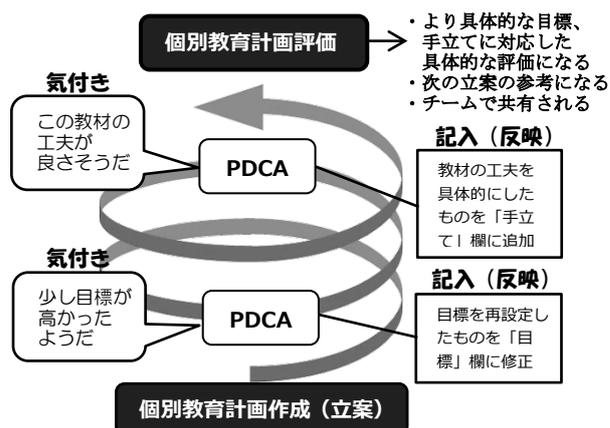
(1) 個別教育計画とは

神奈川県教育委員会では、「個別教育計画」は「個別の指導計画」の意味も含む教育計画であると整理しており、国によって個別の指導計画の作成が義務付けられる以前より県立特別支援学校において作成されてきたものである。

なお、個別の指導計画とは、『個々の児童又は生徒の障害の状態や発達段階等の的確な把握に基づき、指導の目標及び指導内容を明確に』したものである（神奈川県教育委員会2005）。

(2) 「見直し、修正」の意味

本研究では、「見直し、修正」の意味を、「個別教育計画の立案後から期末評価までの間に、必要に応じて内容の追加、削除、変更等を行い、個別教育計画に記入すること」（第1図）として使用する。



第1図 個別教育計画の「見直し、修正」

また、「見直し、修正」のタイミングについては、学期毎や前後期等、各学校で設定された評価の区切りの時に行うものではなく、計画の立案後から期末評価までの間、日々の指導の中で気付きがあった時に適宜行うことが大切であると考える。

児童・生徒の実態が変化したり、実態把握が進み目

1 神奈川県立三ツ境養護学校

研究分野（今日的な教育課題研究 個別教育計画を活用した指導の充実に関する研究）

標や活動内容が変更、精選されてきたりすることは日々の中で起こり得ることである。その気付きを個別教育計画に反映させることで、目標や手立て等は、より実態に対応したものになる。

長沼 (2014) は、授業改善を目指した目標設定について「曖昧な目標に対しては、的確な評価ができません。(中略)適切な目標を設定することで、指導の意図が明確になり具体的な指導内容を設定することにつながります。」と述べている。このことから、適切な目標設定は授業改善のために必要であり、個別教育計画の目標が曖昧な場合はそのままにせず、必要に応じて「見直し、修正」し、適切な目標設定をすることが重要と考える。

2 研究の方法

本研究では、県立特別支援学校を対象に個別教育計画の「見直し、修正」についてアンケート調査を実施し「見直し、修正」を行う上での課題を分析する。分析した結果を受け、所属校の協力者（以下、検証協力者という）と「見直し、修正」を推進するための取組（検証）を行う。研究のまとめとして日々の「見直し、修正」を推進するためのシステムモデルを提案する。システムモデルには「見直し、修正」に必要な要素とともに、推進のための活用例、具体例を提示する。

3 アンケート調査の結果と考察

(1) アンケート調査の概要

実施期間 平成26年7月～8月

- 対象
- ・ 県立特別支援学校27校
個別教育計画を担当する総括教諭：27名
各学部（幼、小、中、高）担任2名
（経験年数5年以下1名、6年以上1名）：239名
 - ・ 所属校
担任、クラス外教諭、総括教諭：82名

設問内容概要

設問 A	個別教育計画の「見直し、修正」について 回答者：担任（6問）
設問 B	教員間の情報共有について 回答者：担任（3問）
設問 C	個別教育計画作成に関する「研修等」、「手引き等」、「システム」について 回答者：担任（6問）、総括教諭（7問）

(2) 「見直し、修正」の現状

ア 「見直し、修正」システムの有無

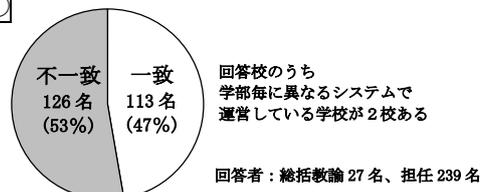
「各校における『見直し、修正』システムの有無について」の設問（回答者：総括教諭）に対しては、システムがある学校は27校中22校、システムがない学校は5校であった。

イ 総括教諭と担任との回答の不一致

同じ設問（「各校における『見直し、修正』システム

の有無について」)に対して同校の担任の回答と総括教諭の回答の比較を行い、回答の一致状況を示した（第2図）。ここでは、両者の間に全体のうち53%の不一致があり、一致よりやや多いことが分かった。

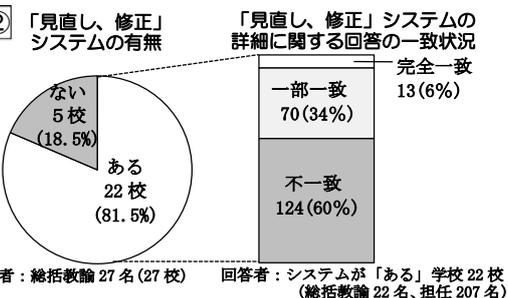
設問 C-①



第2図 「『見直し、修正』システムの有無」についての回答の一致状況

次に、「見直し、修正」システムが「ある」と回答した22校にシステムの詳細（書式、確認方法、修正時期、打ち合わせの有無）について質問した。さらにその回答を総括教諭と担任とで比較し、回答の一致状況を整理した（第3図）。ここでは、総括教諭と担任との回答の完全一致が6%、一部一致が34%、不一致が60%だった。学校としてのシステムと完全に一致している回答者が非常に少なく、不一致の回答者が半数以上を占めている。このことから、多くの学校で「見直し、修正」システムはあるが、その内容についての認識にずれがあり、周知が十分ではないことが分かった。

設問 C-②

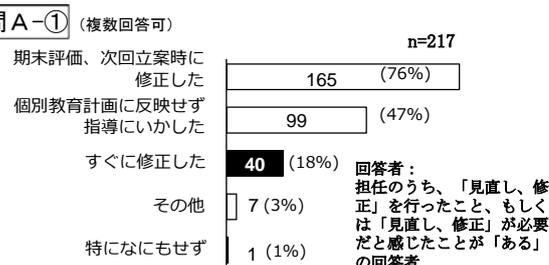


第3図 「見直し、修正」システムの有無とシステムの詳細に関する回答の一致状況

ウ 即時的に「見直し、修正」を行った割合

個別教育計画の作成に当たって、「見直し、修正」が必要と感じたことがあると回答したのは全体のうち91%だった。そのうち「見直し、修正」の必要性が生じた時に即時的に修正を行ったのは18%だった。最も多かった回答は「期末評価、次回立案時に修正した」、次いで多かったのは「個別教育計画に反映せず指導にいかした」だった（第4図）。

設問 A-①



第4図 「見直し、修正」の必要性が生じた時の対応

ここでは「見直し、修正」を必要と感じている人が多い一方で、即自的に修正を行った人の割合が少ないことが分かった。

(3) 「見直し、修正」を行う上での課題

アンケートの回答から、個別教育計画の「見直し、修正」を行う上での課題を分析した。記述回答の内容から、「見直し、修正」を行う上での課題が大きく三つあることが推察された(第5図)。そこで、三つの課題に着目しながらアンケート分析を進めた。

ア 教員間の情報共有の難しさ

「日々の指導のPDCAの過程で生じた修正内容を個別教育計画に反映しにくい理由」について最も多かった回答は、「情報共有、作業などの時間の無さ」、次いで多かったのは、「日々の中で個別教育計画について話題が挙がりにくい」だった(第6図)。

また、記述回答においても情報共有を行うことが難しい現状について書かれており、時間の無さの理由として会議等や、事務仕事が多いことが挙げられていた。個別教育計画の作成をチームで行うように、「見直し、修正」においてもチームで気付きを共有することが必要である。しかし、現状は情報共有の機会や時間がなく、教員間で情報共有をする上で難しさがあり、そのことが「見直し、修正」のしにくさにつながっていると考えた。

イ 個別教育計画と日々の指導とのつながりにくさ

記述回答において個別教育計画を日々の指導の中でいかすことができていないことに関する内容が複数あった。これは、個別教育計画と日々の指導とのつながりが少ないことが示唆される。個別教育計画と日々の指導とのつながりが少ないと、記述回答「評価の時に実施していない内容があることが分かる」(第5図下線部①)というように、個別教育計画が形骸化していくことが懸念される。個別教育計画は、日々の指導と関連させて必要に応じて修正していくことが求められているが、個別教育計画が形骸化すると「見直し、修正」を行い指導の改善を図ることは難しい。

これらのことから、個別教育計画と日々の指導とつながりにくい現状があり、そのことが「見直し、修正」のしにくさにつながっていると考えた。

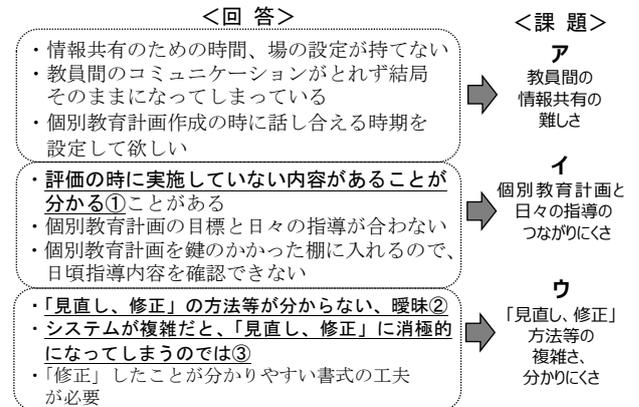
ウ 「見直し、修正」の方法等の複雑さ、分かりにくさ

「見直し、修正」を行う上で、その方法等は校内で共通認識が図られている必要がある。しかし調査結果(3(2)イ参照)からは「見直し、修正」の方法等について、自校の方法等を正確に把握している割合が少ないことが分かった。このことは、記述回答『「見直し、修正」の方法等が分からない、曖昧』(第5図下線部②)という指摘と関係していると推察できる。

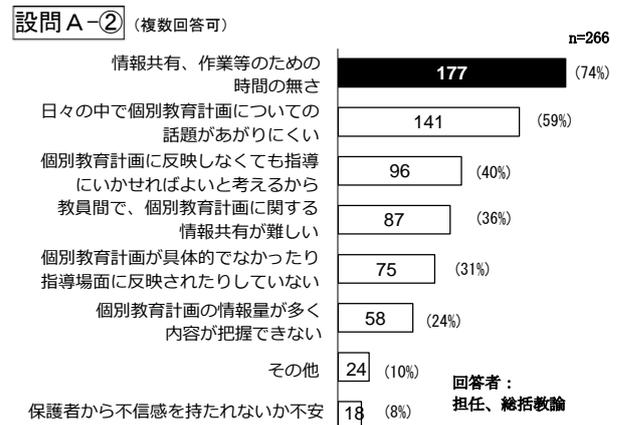
さらに、記述回答において「システムが複雑だと、『見直し、修正』に消極的になってしまうのでは」(第5図下線部③)という指摘があった。「見直し、修正」

の必要性が生じてその方法等が複雑であると、忙しい日々の中でわざわざ学期途中に「見直し、修正」しようという意欲は薄れてしまうと考えられる。

そして、その方法等が十分に周知されていない現状があり、そのことが「見直し、修正」のしにくさにつながっていると考えた。



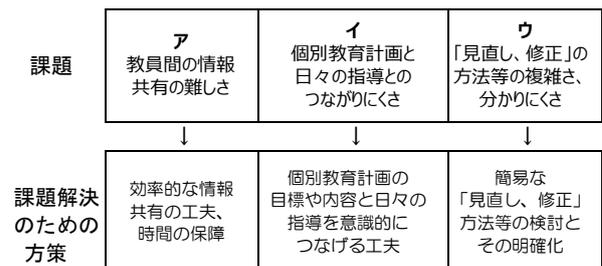
第5図 アンケート記述回答(一部抜粋)から見た「見直し、修正」に関わる課題



第6図 日々のPDCAの過程で生じた修正内容を個別教育計画へ反映しにくい理由

(4) 「見直し、修正」に関わる課題解決のための方策

上記(3)で整理した通り、アンケート結果からは、「見直し、修正」を行う上での課題は三つにまとめることができる。また、各課題に対し、効率的な情報共有の工夫と時間の保障、個別教育計画の目標や内容を日々の指導に意識的につなげる工夫、簡易な「見直し、修正」の方法等の検討とその明確化が大切であり、それが課題を解決するための方策となると考えた(第7図)。



第7図 「見直し、修正」に関わる課題解決のための方策

さらに、具体的な方策の検討に当たっては、日々のPDCAの過程で生じた修正内容を個別教育計画に反映しにくい理由として最も多い回答が「時間がない」である現状を踏まえ、少ない時間で効率よく取り組める内容であることに十分留意し、検討していくことが求められる。

4 検証

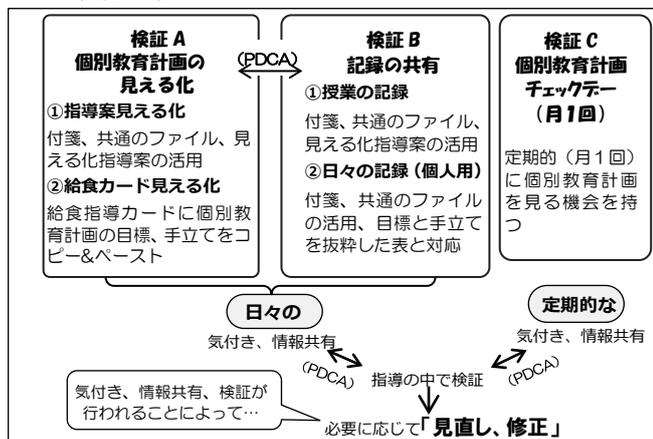
(1) 検証内容の概要

「見直し、修正」の課題ア「教員間の情報共有の難しさ」、イ「個別教育計画と日々の指導とのつながりにくさ」に関わる課題解決のための方策について、具体的な方法（検証A、B、C）を挙げ、検証を行った（第8図）。

実施期間 平成26年10月6日～10月29日

対象 三ツ境養護学校 肢体不自由教育部門
小学部4年生担任4名（検証協力者）

(2) 検証内容



第8図 検証全体像

検証A

「個別教育計画の見える化」はPDCAサイクルのPlan-Doに当たり、日々の指導の中で個別教育計画を意識する取組である。個別教育計画の目標・手立てをコピー&ペーストした指導案と給食指導カードを活用することで、個別教育計画の目標・手立てを意識した指導につながると考えた。

検証B

「記録の共有」はPDCAサイクルのCheckに当たり、個別教育計画の観点を持って指導内容の記録を蓄積し、教員間で共有する取組である。今回は検証Aの授業の記録と、対象児童の日々の記録においてこの取組を行った。ここでは共通の記録ファイルを活用するとともに、「日々の記録」では個別教育計画の目標・手立てを抜粋した表を記録ファイル先頭にファイリングした。このことにより情報が集約され、記録を蓄積する過程で教員間の情報共有が図られると考えた。

検証C

「個別教育計画チェックデー」は、月に一回個別教育計画を確認する日を設定し、情報共有や修正を行う

ための時間を保障するというものである。

検証AとBは日々の気付きと情報共有を促し、検証Cは定期的な気付きと情報共有を促すことをねらっている。このように毎日の枠組みと、定期的な枠組みの中で気付きと情報共有を促すことが、指導におけるPDCAを促進させ、「見直し、修正」の必要性に気付きやすくさせると考えた。

(3) 検証結果

検証A、B、Cの実施後、検証協力者から聞き取りを行った。検証結果から、検証A、B、Cが「見直し、修正」に関わる課題解決のための方策として有効であるといえる。

<聞き取り内容>

検証A	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとして授業を作る上で、一人ひとりのねらいを整理でき、サブティーチャーに伝えるツールとしてもよかった。 ・それぞれの子どもの目標、手立てを意識する助けになる。全体を意識した授業づくりができた。
検証B	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の記録」を書くときに指導案の目標と照らし合わせながら書いた。ただ様子を書くだけではなく、観点を持って記録できた。 ・ファイルが所定の場所にあることで記録を共有、蓄積できている。
検証C	<ul style="list-style-type: none"> ・個別教育計画の中で取り組んでいない内容や、指導に行き詰まっている部分の共有と、今後どうやっていくかについて教員間で話し合えた。

検証A「個別教育計画の見える化」では、「指導案」と「記録ファイル」に個別教育計画を見える化することで、日々の指導の中で個別教育計画を意識した指導、記録の蓄積ができたといえる。検証B「記録の共有」では、所定の記録用ファイルや方法があることで、記録を共有することができた。

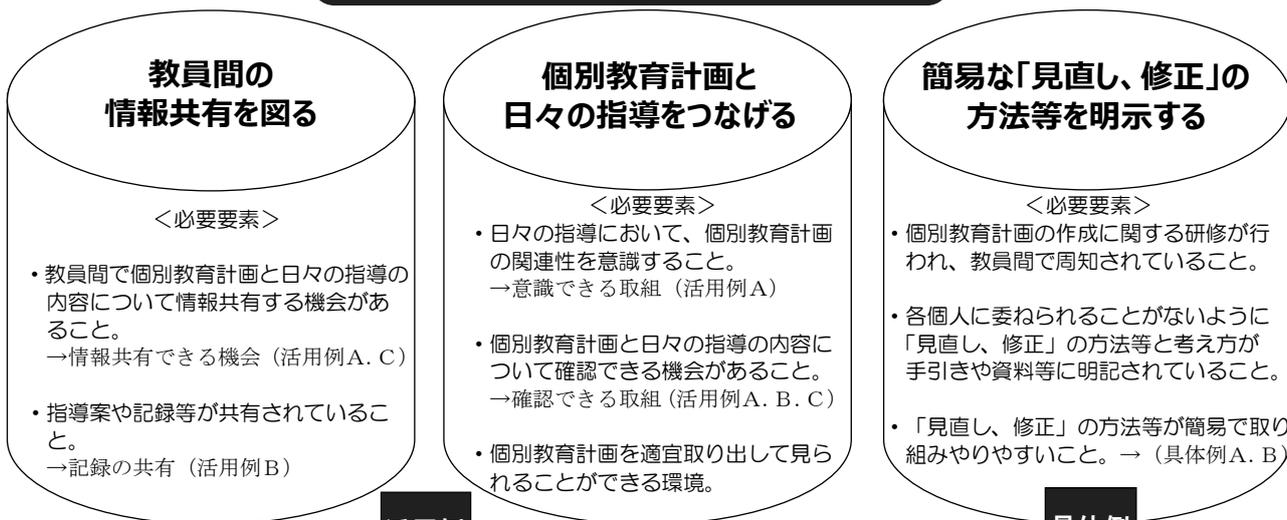
このような取組を行うことが業務の負担になると懸念されるところもあるが、ポイントとなる授業や場面の中で限定的に行うことも可能である。また、この検証A、Bは、指導案と授業記録等の蓄積があれば、今までの実践に個別教育計画を見える化する要素を加えることで取り組むことができる。

検証C「個別教育計画チェックデー」は、検証期間の最終週に行った。ここでは、次の指導に向けた情報共有ができたことが大きな成果だったといえる。

日々の業務に追われる中では、まとまった時間を取ることが難しく、情報共有も連絡事項のみに留まってしまうことが多い。しかし、今回のように「見直し、修正」のための時間を設定することで、「個別教育計画に記載しているが取り組んでいないこと」等、今後の指導に関することまで話し合いを深めることができた。

なお、検証後に行ったアンケートの中では、検証協力者全員が検証A、B、Cにおいて「指導の際、児童の目的、手立てを意識する上で有効だった」と回答している。

日々の「見直し、修正」を推進する三本柱



↓
活用例

↓
具体例

活用例A「個別教育計画の見える化」

<p>「指導案見える化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案に個別教育計画から授業における目標、手立てと思われるものをコピー&ペーストする。必要に応じて、内容を具体的に書き加える。 ・指導案は共有のファイルに保管し、記録の際に活用する。 	<p>「給食カード見える化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食指導に関する目標、手立てを記載したカードを作成する。 ・指導担当者が代わる場合は、新たな留意点等のメモを書き加え、情報を共有する。 ・児童・生徒の変化や気になることがあった場合はその都度書き加える。
---	--

活用例B「共有の記録ファイル」

<p>「授業の記録」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共有の指導案ファイルの指導案の裏面に関わった児童・生徒についての記録を付箋に記入する。 ・個別教育計画を見る化した指導案を参考にしながら、評価の観点に基づいて記録する。 ・ファイルは職員室内で保管し、学級の共有のものとして位置付ける。 	<p>「日々の記録」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の児童・生徒一人ひとりのファイルを作成。職員室内で保管し、学級の共有のものとして位置付ける。 ・ファイル先頭に個別教育計画の目標、手立てを抜粋した用紙をファイリングし、評価の観点に基づいた記録を蓄積できるようにする。 ・日々の指導の中で気付いたことや変化等があった時に記録する。
--	--

活用例C「個別教育計画チェックデー」

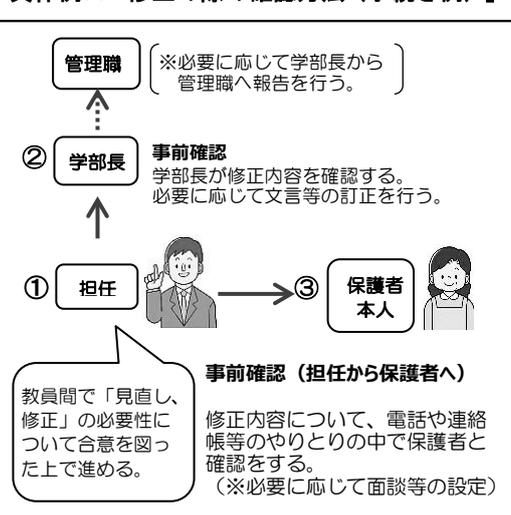
月1回、個別教育計画を定期的に見る機会を持ち、教員間で情報交換を行ったり、「見直し、修正」の作業を行ったりするために、学校として設定される日

方法

- ・担当の個別教育計画を見返す。
- ・修正点や確認の必要な事等について、共通理解する。
- ・修正が必要な場合は学校の手続きに則って修正を行う。

留意点 少ない時間でもできるように、見直すポイントや対象者を絞る等。

具体例A「修正の際の確認方法（手続き例）」



具体例B「個別教育計画の修正方法（書式例）」

<p style="text-align: center;">目標</p> <p>給食を一人で食べることが できる</p>	<p style="text-align: center;">手立て</p> <p>適宜言葉かけを行う 時計を見せて</p>
--	---

では、自助具を使って10分間（月日）残り時間を示す（追加）（月日）

- ・修正の必要が生じたら保管されている個別教育計画ファイルに鉛筆で書き込む。
（変更した部分分かりやすいように手書きで）
- ・評価時に、手書きの修正部分をデータとして打ち込む。
（次期作成に反映させるためにもデータでも残す）

第9図 日々の「見直し、修正」を推進するシステムモデル

5 日々の「見直し、修正」を推進するシステムモデル
アンケート、検証、検討の結果を受けて日々の「見直し、修正」を推進するシステムモデルを作成した（第9図）。このモデルは「見直し、修正」を推進する三本柱と、活用例及び具体例で構成した。三本柱の中には、

柱を構成するための必要要素を記載している。
検証後の聞き取りから成果、課題を整理した内容をシステムモデルの中で活用例A、B、Cとして提示した。活用例には、日々の「見直し、修正」の推進を図る方策を示した。これによって日々の中で「見直し、

修正」の必要性への気付きが促進されることが期待できる。

また、検証結果を踏まえ、「見直し、修正」の課題ウ『見直し、修正』の方法等の複雑さ、分かりにくさ』に関わる課題解決のための方策について、検証協力者と所属校の個別教育計画担当の総括教諭とで検討した。その内容をシステムモデルの中で具体例A、Bとして提示した。具体例には、簡易に取り組める「見直し、修正」の方法等の例を示した。

6 研究のまとめ

(1) 成果

本研究では、各学校での「見直し、修正」の現状と課題を整理した。アンケート分析の結果、「①教員間の情報共有の難しさ、②個別教育計画と日々の指導とのつながりにくさ、③『見直し、修正』方法等の複雑さ、分かりにくさ」の三点が「見直し、修正」のしにくさにつながる課題であることが分かった。

次に、課題、工夫の分析と検証結果から「①効率的な情報共有の工夫と時間の保障、②日々の指導と個別教育計画を意識的につなげる工夫、③簡易な『見直し、修正』の方法等の検討とその明確化」の三点が日々の「見直し、修正」を推進する上で有効な方策であると考え、検証を行った。

課題に対する方策として検証A、B、Cを行った結果、全ての検証において成果が見られた。そして、検証、検討を踏まえ「日々の『見直し、修正』を推進するシステムモデル」を提案した。

(2) 今後の課題

本研究ではシステムモデルを提案したが、有効性の検証については今後、指導の中でさらに検証していく必要があると考える。

また、調査の中で「見直し、修正」の方法等がまだ十分に周知されていない現状がうかがえた。毎年多くの異動があり、校内の体制・システムが変化していく現状を踏まえると、研修や手引き等を活用して共通理解を図ることは必須である。そして、「見直し、修正」の方法等を分かりやすく示すことで、学校全体で一定の方向性を持ち、個別教育計画の作成および活用が進められると考える。

そして、今回の検証の中で「個別教育計画チェックデー」として、個別教育計画のチェックと教員間で情報共有するための時間を設定したが、このような時間をクラス単位で定期的に設定するのは難しいことも考えられる。そこで、学校全体で事務仕事や会議等の整理を行い、情報共有の時間を設定することも重要な観点であるといえよう。

さらに、多くの学校では、個別教育計画を電子データで作成し校内サーバーに保存していると思われるが、PCが教員一人に一台配置されている学校は少ない。

そのため、いつでも個別教育計画のデータにアクセスできる環境はまだ整っていない。今後、校内のICT環境の整備が進めば、PC等で個別教育計画を簡単に共有、活用できると思われる。しかし、今はその環境が整っていないことから、全てのことをデータ上で行うのは現実的ではない。現段階では、具体例B「個別教育計画の修正方法（書式例）」のように、作成は電子データで、修正は手書きでというように、臨機応変に方法を選択しながら個別教育計画の作成と活用を進めていけるとよいと考える。

児童・生徒の実態が変化すれば、個別教育計画及び日々の指導内容は変化していくと重ねて申し上げたい。本研究で提示したシステムモデルを実践にいかしていただき、個別教育計画の活用と指導の充実につながることを期待したい。

おわりに

研究を通して、個別教育計画を作成、活用する必要性と難しさを改めて実感した。アンケート調査においては、各校様々な課題がある中、工夫して取り組んでいる現状が分かった。検証に当たっては各校の取組から多くのヒントをいただいた。本研究の「見直し、修正」を推進するシステムモデルとともに、多くの学校の工夫や取組が今後さらに発展、発信され、県全体での共有が進むことを望んでいる。

本研究を進めるに当たって、調査にご協力くださった先生方、検証にご協力いただいた先生方に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 神奈川県教育委員会 2005 「支援が必要な子どものための『個別の支援計画』～『支援シート』を活用した『関係者の連携』の推進～（改訂版）」p.16
- 長野県総合教育センター 2010 「特別支援教育 教育課程学習指導手引書『共通・連携編』」 p.40
- 長沼俊夫 2014 「肢体不自由教育実践 授業力向上シリーズNo.2—解説 目標設定と学習評価—」 p.24

参考文献

- 磯崎洋二・立脇寛人 2003 「授業とつながる個別教育計画—個別教育計画に基づいた個別カリキュラムの検証・開発 中間報告—」
- 文部科学省 2009 『特別支援学校学習指導要領解説総則編』 教育出版株式会社
- 文部科学省ホームページ「個別の指導計画と個別の教育支援計画について」http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/032/siryo/0609_0604/003.htm (2014.4.25取得)